

目次

はしがき	長谷川 成一	1
研究の概要		
	研究組織／交付決定額／研究発表	2
第Ⅰ部「弘前并近郷之御絵図」（青森県立郷土館蔵）資料		
	長谷川 成一	
図1	「弘前并近郷之御絵図」カラー全体図	3
図2	「弘前并近郷之御絵図」分割図	3
図3	「弘前并近郷之御絵図」カラー分割図①	4
図4	「弘前并近郷之御絵図」カラー分割図②	4
図5	「弘前并近郷之御絵図」カラー分割図③	5
図6	「弘前并近郷之御絵図」カラー分割図④	5
図7	「弘前并近郷之御絵図」カラー分割図⑤	6
図8	「弘前并近郷之御絵図」カラー分割図⑥	6
図9	「弘前并近郷之御絵図」トレース全体図	7
図10	「弘前并近郷之御絵図」の範囲	7
図11	「弘前并近郷之御絵図」分割図	8
図12	トレース分割図①	9
図13	トレース分割図②	10
図14	トレース分割図③	11
図15	トレース分割図④	12
図16	トレース分割図⑤	13
図17	トレース分割図⑥	14
○	「弘前并近郷之御絵図」に見える地名一覧	15
○	「弘前并近郷之御絵図」碁紙の翻刻文	18
第Ⅱ部 研究編		
○長谷川成一	津軽氏城跡の発達過程を探る基本資料の基礎的考察 —「弘前并近郷之御絵図」と「天和書上絵図」—	19
○関根 達人	津軽氏にみる戦国の城館・元和の城館 —種里・大浦・堀越そして亀ヶ岡—	49

はしがき

長谷川 成一

本書は、平成15年度から17年度にかけての3年間にわたって、日本学術振興会科学研究費補助金の交付を受けた研究の成果を示す報告書である。研究課題の名称は「津軽氏城跡の発展過程に関する文献資史料と遺物資料による研究」(研究種目は「基盤研究(C)(2)」、課題番号は15520394)である。研究代表者は弘前大学人文学部・大学院地域社会研究科教授 長谷川成一、研究分担者は同人文学部助教授 関根達人である。

本研究は、戦国末期以来、津軽地方において地域権力を形成してきた津軽氏(当初は、大浦氏を称する)の城跡の発展過程を、文献資史料と遺物資料によって解明しようというものである。

具体的には、各時期の支配の拠点としてきた、種里城たねさとをはじめとする、大浦城おおうら、堀越城ほりこし、そして弘前城などの城郭を、単なる個別の城郭として捉えるのではなく、その連続的な面と非連続的な面を明確にすることによって、津軽氏城郭の歴史的発展段階とその特徴を把握しようとする目的をもつ。つまり、文書・記録・絵図類や城館跡から出土した陶磁器や遺物を比較校合して、各城郭の特色と発展段階を跡づようとするものであった。

以上のような研究の目的を達成するために、文献資史料については、弘前市立図書館、弘前市立博物館、国立国文学研究資料館史料館、青森県史編さん室、青森県立郷土館、東京大学史料編纂所、国立歴史民俗博物館、大阪城天守閣博物館、大阪市立歴史博物館などへ出張し、各機関に収蔵されている基本的な文献資史料を調査・収集し、写真撮影をした。加えて、収集資史料の整理とデータベース化も実施した。

遺物資料については、鱒ヶ沢町教育委員会、岩木町教育委員会、市浦村教育委員会、弘前市教育委員会所蔵の陶磁器類を、共通の基準で比較検討できるよう、整理・分類、集計し、主要な資料に関しては写真撮影や実測を行った。さらに、愛知県瀬戸市などへも出張して、陶磁器類の生産地側資料を調査した。

上記のような目的と、3年間にわたる調査と資史料採訪の結果、本書に掲載した資史料とデータ(第I部)、各論文(第II部の長谷川・関根両名の論稿を参照されたい)の成果を得ることができた。調査・資料収集の過程では、多くの機関・個人の方々から多大のご協力を賜った。ここに改めて感謝申し上げたい。また資史料のデータベース化や、各絵図写真・遺物・陶磁器などの整理、トレース図の製作においても、本学の大学院生・学部生諸君の厚い協力を得たことを付け加えておく。

本書において紹介した資史料やデータ、各論稿が、現在のそして将来の研究の基礎となることを強く念願するものである。

研究組織

研究代表者 長谷川 成一 (弘前大学人文学部教授)
研究分担者 関根 達人 (弘前大学人文学部助教授)

交付決定額 (配分額)

(金額単位：千円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 15年度	1, 2 0 0	0	1, 2 0 0
平成 16年度	4 0 0	0	4 0 0
平成 17年度	5 0 0	0	5 0 0
総 計	2, 1 0 0	0	2, 1 0 0

研究発表

(1) 学会誌等

○研究代表者 長谷川成一

- ・「奥羽仕置と東北の大名たち」(単著 『白い国の詩』569 pp4～11 2004年1月)

○研究分担者 関根達人

- ・「出土陶磁器からみた津軽(大浦)氏関連城館跡の検討」(単著 『貿易陶磁研究』24 pp152～170 2004年8月)
- ・「城跡にみる南部氏・津軽氏 近世大名への道筋」(単著 長谷川成一・千田嘉博編 『日本海域歴史大系 第4巻 近世篇I』pp131～157 清文堂出版 2005年9月)

(2) 口頭発表

なし

(3) 出版物

○研究代表者 長谷川成一

- ・『日本歴史叢書63 弘前藩』(単著 pp1～272 吉川弘文館 2004年2月)

○研究分担者 関根達人

- ・『青森県史 資料編 考古4』(共編著 関根達人・藤沼邦彦・工藤清泰・佐々木浩一 青森県 2003年3月)

「研究成果による工業所有権の出願・取得状況」

なし